

2026 年 9 月 15 日

株式会社チェンジ

チェンジ、生徒・保護者・教職員向け e ラーニング

「SNS 活用リテラシー」を提供開始

～炎上・誤情報の拡散など 10 のリスクテーマを事例から学び、SNS トラブルの未然防止を支援～

株式会社チェンジ（本社：東京都港区 代表取締役兼執行役員社長：野田知寛、以下：チェンジ）は、9 月 15 日、深刻化・多様化する SNS トラブルの未然防止を目的に、生徒・保護者・教職員が同じ基準で SNS リスクを学べる e ラーニングコンテンツ「SNS 活用リテラシー」の提供を開始します。また、学校・教育機関での活用に加え、来春入社予定者向けの内定者教育や新入社員研修など、企業における人材育成での活用も想定しています。

本コンテンツは、炎上・誤情報の拡散・著作権侵害など、実際のトラブル事例をもとにした 10 のリスクテーマを映像でわかりやすく解説。立場の異なる生徒・保護者・教職員が「共通のものさし」で学ぶことで、SNS を適切に活用し、安心して楽しめる環境づくりを支援します。

「SNS 活用リテラシー」に関する資料：<https://www.change-jp.com/download/social-media-literacy>

| 事例で学ぶ

SNS活用リテラシー

炎上・トラブルを起こさないために



■ プログラム提供の背景

子どものインターネット利用時間が長時間化し、いじめの認知件数や重大事態の発生件数も高い水準で推移しています。

- ・ 青少年の 1 日当たり平均ネット利用時間は 5 時間 27 分（前年比＋約 25 分）。高校生は約 6 時間 44 分にのぼり、増加が続いています。
- ・ いじめの認知件数は 76.9 万件（前年比＋5.0%）と過去最多を更新。うちネット上のいじめは約 2.7 万件（前年より約 2,700 件増加）で、匿名性が高く潜在化しやすい傾向にあります。
- ・ いじめが深刻化し当事者に重大な被害が生じた「重大事態」の発生件数は 1,405 件（前年比＋7.6%）と、こちらも過去最多を記録しています。

さらに、オンライン環境のリスクは時代とともに多様化し、子どもだけでなく大人も当事者となる状況が生まれています。悪意のない何気ない投稿が招く炎上や、誤情報・デマ拡散への加担、生成 AI コンテンツの無断利用による著作権侵害、サブアカウントの紐づけによる身元特定など SNS を取り巻くリスクは複雑化しています。また、保護者による不適切な情報発信や、教職員による情報管理上の問題など、立場によって直面する課題もさまざまです。

引用：こども家庭庁「令和 7 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査（速報）」／文部科学省「令和 6 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

SNS リテラシーは学校教育だけでなく、社会人としてのスタートを控えた内定者にとっても重要なテーマです。近年では多くの企業で内定者教育が行われるなか、来春の入社を控えた人材に対して、内定期間中の適切な情報発信やトラブル防止に向けた学習ニーズも高まっています。

■ プログラムの特徴

トラブルの多くは、ルールを知らなかったからではなく、「その一言が誰にどう伝わるか」を想像できなかったことで起きています。従来型の「〇〇は禁止」という丸暗記のルール教育では、なぜダメなのかの理解が伴わず、想定外の場面で判断できないうえ、生成 AI やサブアカウントといった新しいシステムや形態を使用することで生じるリスクに追いつけません。

「SNS 活用リテラシー」は、トラブルの因果関係を「構造」で理解し、「自分ごと」として捉えることで、経験のない場面でも自らリスクを先回りできる判断力を養います。

- ・ 生徒・保護者・教職員の「3 つの視点」を網羅：それぞれが当事者となり得るテーマを収録し、学校での指導と家庭のルールづくりに一貫性が生まれます。
- ・ 最新のトレンドリスクに対応：「生成 AI コンテンツの著作権」「SNS 上のチケット売買における詐欺被害」など、教育現場が今まさに直面する課題を反映しています。
- ・ ルール解説ではなく、因果を体系的に学ぶ：丸暗記の形骸化を防ぎ、実践的な判断力が身に付きます。

学習する 10 の SNS リスクテーマは次のとおりです。

- ・ 炎上投稿へのリポスト・コメント
- ・ 著作物の無断転載・使用
- ・ バイトテロ
- ・ 生成 AI 活用による著作権侵害
- ・ 情報漏洩
- ・ 不適切な表現
- ・ SNS いじめ
- ・ デマ・誤情報の拡散
- ・ SNS 詐欺
- ・ 闇バイト

■ プログラム体系（学び方の価値）

各教材は実際のトラブル事例をもとに、記憶に残る「3 ステップ」で構成しています。因果を構造で理解することで、丸暗記の形骸化を防ぎ、自らリスクを先回りできる実践的な判断力を養います。

1. 発生要因を事例から読み解く
2. 周囲に広がる影響を理解する
3. 具体的な回避策を身につける

提供形態は、学習環境に合わせて選べます。すでに LMS（学習管理システム）をご利用の場合は映像教材の利用権を購入いただくことで即時に視聴学習が可能です。LMS をご利用でない場合は、視聴環境（learningBOX）とセットでご案内します。

■ 代表コメント

株式会社チェンジ 代表取締役兼執行役員社長 野田知寛

「SNS はもはや生活に欠かせない存在であり、禁止するのではなく、正しく理解して活用する力こそが求められています。私たちは、生徒・保護者・教職員という立場を超えて全員が同じ基準で学べる仕組みを通じて、トラブルを未然に防ぎ、誰もが安心して SNS を楽しめる社会づくりに貢献したいと考えています。『Change People, Change Business, Change Japan』のミッションのもと、教育の力で子どもたちの未来を守ってまいります。」

■ 株式会社チェンジについて

株式会社チェンジは、現場に入り込み、変化を支え抜く「企業変革の黒子」です。人材育成と業務プロセスの刷新とデジタル化を設計し、提案で終わらず、成果が生まれるまで責任を持って伴走します。チェンジグループの一員として、教育・AI・組織変革の知見を掛け合わせ、現場に入り込みながら変革を推進。「Change People, Change Business, Change Japan」をミッションに、組織の生産性と現場力の進化に貢献しています。会社概要は <https://www.change-jp.com/> をご覧ください。

<本件のサービスに関する問い合わせ先>

株式会社チェンジ Next Learning eXperience 事業部

Email : lxinfo@change-jp.com

<本件の取材に関する問い合わせ先>

株式会社チェンジホールディングス

広報担当：宗形・岡

Email : pr@change-jp.com